

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なのはな・なのはな栄町・なのはなぶらす		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2024年10月15日		～ 2024年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 28
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別対応の充実	それぞれの利用者に対して個別にカスタマイズした療育プログラムを提供できるため、ニーズにあった支援が可能	毎回の療育を振り返り、伸ばしたい内容や新たに出てきた課題に対応した療育プログラムを展開していく
2	専門的なスタッフ	自閉症、発達障害や特別支援教育の専門知識を持ったスタッフが多く在籍しており、高い質のサービスが期待できる	事業所内研修はもとより、外部の研修にも積極的に参加して研鑽を積んでいく
3	親密な関係構築	利用者スタッフの距離が近いこと、信頼関係を築きやすく、安心して利用することができる	毎回のフィードバックを基本とし、必要に応じて事業所内相談支援も取り入れていく
4	柔軟なプログラム	利用者の成長に合わせた柔軟なプログラムの見直しや調整が可能	個別支援計画においては利用者の成長や変容に合わせて常に見直しを進めていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	リソースの限界	人員や予算が限られている場合、個別サポートの範囲が制限される	できるだけ業務の効率化を図ることや外部に委託できる部分があるか検討していく
2	利用者数の制約	個別対応を重視しているためハード的に受け入れ可能な利用者数が限られることがある	日頃から療育スケジュールを見直し、受け入れ可能な枠を少しでも増やせるようにしていく
3	スタッフの負担	個別対応は時間と労力を要し、スタッフの負担が大きくなる可能性がある	個別療育が担当制になっているため、なかなか休めない現状があるが、他の指導員でも担当できるよう柔軟な体制にしていく
5	ICTの活用	請求ソフトや利用者情報管理システムの導入が進んでいないため、業務の効率化には課題がある	今年度請求ソフトを導入したので業務負担が軽減されると思われる